

No.
13

[秋号]

April
- October

惠泉女学園 大学報

Keisen University
2008.11

① 学園ニュース

卒業式・学位授与式

長期タイフィールドスタディ

② スペイン語学南米文化研修

中国フィールドスタディ

③ 惠泉女学園生

④ 行事報告

カリヨンの音色

多摩フェスティバル

お弁当の日

⑤ 惠泉トピックス

惠泉女学園大学大学院主催
国際シンポジウム

「アジアにおける
民主化と宗教」

11/8(土) 13:30~16:30
J202教室

クリスマスツリー点火式
11/26(水) 16:45 前庭

クリスマス礼拝
12/12(金) 16:30 チャペル

11/8(土) 9(日)
第21回多摩フェスティバル
テーマ「JEWELRY BOX～めざせ！ステキ女子～」



平和の創造を目指して

-日本初の大学院「平和学研究科」-

多摩フェスティバルが、11月8日と9日に開催されます。この学園祭は学生たちが主催し実施するものですが、惠泉女学園の創立記念日である11月3日に近接する週末を選び、惠泉女学園の理念を改めて意識する日でもあります。そのため学生たちの催しに並んで、大学や大学院が主催する、キリスト教、園芸、国際平和に関連したイベントもいくつか開催されます。

今回の目玉は、私たちが交流している海外の三団体で優れた活動を行っているゲストをお招きして行う、平和文化研究所・大学院共催のアジアの民主化、宗教、ジェンダーについての国際シンポジウムです。この三団体とは、アジア各国で貧困や差別に立ち向かうNGOのスタッフ向けの修士課程を持つ韓国の聖公会大学、アジアの社会活動家や宗教指導者向けに短期の平和学コースを持つAMANというイスラーム教系NGO、そして本学のフィールドスタディーを受け入れてくれているチェンマイ大学です。

さらにこうした国際平和の実現に取り組む私たちの姿勢をより明確に社会的に示す為に、本学の大学院人間社会学研究科は来年4月から「平和学研究科」に名称変更します。ちなみに平和学という名称を冠した大学院の研究科は、日本初です。二度の世界大戦に象徴される「戦争の世紀」であった20世紀に代わって、21世紀は「平和の世紀」になると期待されていました。ところが2001年の9・11事件以降、紛争や戦争そしてテロ事件が世界各地で続いている。また経済のグローバル化が進む中で、貧困や格差の問題は南の国々だけでなく、私たちの身近な問題にもなりました。温暖化に代表される地球環境問題も、深刻さを増すばかりです。

こうした複雑化を増す国内外の情勢のなかで、積極的に平和の創造に携わる女性をしっかり育てることが、惠泉女学園大学の理念に基づいた責務だと考えています。開学20周年を迎えた大学のこの歩みを、お支えください。



人間社会学研究科長
人間社会学部長

大橋正明

<<< News

2008年9月卒業式・学位授与式

9月25日（木） 学部の卒業式・学位授与式が行われました。3月の卒業式場はB棟の大教室ですが、9月卒業式はチャペルにて、パイプオルガンの音色の中で厳かに行われました。

学位記授与の後、聖書（エフェソの信徒への手紙）から、「光の子として歩みなさい」と題して、木村利人学長からの式辞がありました。少人数ではありますが、式後にはラウンジで卒業生、保証人、教職員の茶話会が行われ、卒業生一人ひとりが卒業にあたってのひと言を述べました。

一旦就職をして仕事をした後に、日本語を学ぶために惠泉女学園大学に入学をした中国からの留学生は、卒業まで大きな努力が

必要だったのでしょう。卒業の喜びも人一倍の様子でした。

また、英語コミュニケーション学科の卒業生は、早期卒業制度による、新カリキュラム（新学科）での最初の卒業生です。



学位記授与

9月卒業生

人文学部 日本文化学科7名、英米文化学科1名、
国際社会文化学科2名

人文学部 英語コミュニケーション学科1名 合計11名

<<< News

2008長期タイフィールドスタディ

【タイでの生活が始まって】

タイに来て約1ヶ月、私たちはチェンマイ大学の中にあるユニサーブという宿泊施設に泊まっています。ユニサーブのスタッフの人たちとも仲良くなり、覚えたてのタイ語で楽しく会話をしています。

タイのご飯は安くとても美味しいです。夕飯に何を食べるかを考えるのが毎日の楽しみの一つになっています。タイは今、雨季なので1日に1回は雨が降りますが、日本人の私たちにとってはとても過ごしやすい気温になっています。今のところ体調を崩している人もおらず、皆元気に頑張っています。

現在、平日の午前中は、タイ語の授業、午後はNGO団体に行ったり寺院に行ったりしてタイの文化や歴史などについて学んでいます。休日は近くの市場まで買い物に行ったり、ドイステープ寺に行ったりして過ごしています。タイ人と関わる機会はあまりないですが、メンバーの中で何人かは友達もでき、食事を一緒にとっている人もいます。

【今、タイで学んでいること】

タイでは最初の1ヶ月、月曜から金曜まで週に5日タイ語の授業が行われています。

朝9時から12時までの3時間の授業です。授業の内容は、基本的な文法から日常会話、タイ文字などまんべんなく進めています。特にタイ文字に力をいれており、タイに来たばかりの頃に比べて、とてもタイ文字が読めるようになりました。普段は惠泉ルームで授業を行いますが、実際に市場などに行ってタイ語を話す課外授業も行われました。

また、タイ語の勉強のほかにも北タイ、チェンマイで活動しているNGOの訪問も行っています。実際に訪問して、NGOが行っている

活動を体験することで理解を深めています。9月にチェンマイ大学でNGOセミナーが行われ、惠泉女学園大学の大橋正明先生（人間社会学部）や北タイで活動しているNGOが集まりました。このセミナーにも参加することでき、貴重な学びをすることができました。

【これからの予定】

11月3日からの体験学習に備え、10月1日から体験学習先訪問が始まっています。農村ホームステイや山岳民族ホームステイ、そして体験学習先訪問を通して、自分のテーマにあった体験学習先を具体的に決めていきます。現在は、農村ホームステイの準備をしたり、自分のテーマに必要な資料や文献、今までの長期FS生のレポートをなどを読んだりして自分のテーマをそれぞれ深めています。私たちはそれぞれ分野の違う様々なテーマに关心を持っています。今のところ各自が考えているテーマは高齢者、伝統医療、刺繡、地産地消、共同体、民族音楽、人身売買です。良い充実した体験学習ができるよう、これから学びの中で自分のテーマをさらに深めていきたいと考えています。



参加者：人間社会学部国際社会学科4年2名、3年2名、2年3名

長期タイフィールドスタディ スケジュール

2008年8月下旬	タイ・チェンマイ到着、オリエンテーション合宿
9月～10月	タイ語ほか、講義とフィールドトリップ 体験学習準備
11月～	体験学習(途中、中間報告)
2009年1月	惠泉女学園大学での報告会 レポート提出、評価会、帰国

« Report

スペイン語学南米文化研修

人文学部文化学科の企画による海外研修プログラムとして、昨年度のイタリア語学文化研修に引き続き、今夏に第1回スペイン語学南米文化研修が実施されました。南米（ボリビア、ペルー）を研修先としたこの語学文化研修は、大学による海外研修プログラムとしては国内では他に例を見ない、おそらくは恵泉による初の試みでしたが、保護者の方々や教職員のご理解と多大なるご協力、そして何よりも19名の参加学生一人ひとりの高い学習意欲とその自己管理力に支えられ、無事に終了することができました。スケレ（ボリビア）での実質8日間のスペイン語研修以外に、近現代世界成立の源泉ともいえるあのポトシ鉱山の見学や、植民地時代以前から続く山道のトレッキング4時間を見てのボトラ先住民村アルタナティブ・ツアへの参加、さらにはサンタクレスでのサンファン日系移住地訪問、ラパスでのJICA事務所や青年海外協力隊の活動現場見学、ペルーでのウロス島やマチュピチュをはじめとするプレ・インカ、インカ、植民地時代の様々な遺跡探訪・・・と、かなりハードで盛り沢山な研修内容でしたが、軽度の高地症状や下痢、風邪などに慢性的に悩まされながらもdeep Americaの異文化を果敢に体験しようとする学生たちの意欲とエネルギーと好奇心が全開の23日間でした。

（文化学科教授 筒尾典代）

研修の前半の語学学校では、1クラス3人～4人の少人数制で1日6時間の勉強でした。私の先生は宿題を出すのが好きな方だったので朝食を食べずに学校にいくことも多々あり大変でしたが、クラスごとに練習したボリビア各地の民族舞踊を豪華な衣装に身を包み、学校にホストファミリーを招いて発表するイベントなどもあり、とても楽しい思い出になりました。

スケレでのある日のこと、私は郵便局の人に「切手を下さい」と言い葉書を手渡しました。すると「ドス（2時）」と言いながら葉書を突



き返し、時計を指で示しました。時刻は12時16分・・・シエスタ。ボリビアでは12時から2時までをシエスタ（お昼休み）とし、大人、子どもに係なく家に帰って家族全員で昼食を食べる習慣があります。仕方なく家に帰り、ホストファミリーの笑顔と一緒にご飯を食べながら、この時間は社会の循環よりも家族との繋がりを大切にしている南米文化の表れなのだと知りました。

そして、この研修旅行のハイライトでもある、空中都市マチュピチュは、4時間かけても周りきれないほど広大かつ壮大なものでした。これを造ったインカの人々の山を切り崩して都市を造るという発想や耐震構造も施したという高度な建築技術に、ただただ驚かされるばかりでした。短い期間ではありましたが、現地で生活することで南米の習慣や風習に触れ、机上で勉強したことを実際に見て、聞いて、触れるこの歓びとともに、その中から新たな問題意識が生まれる楽しさを体験できた研修でした。（文化学科4年 間瀬裕美）

実施期間：2008年8月19日～9月10日（23日間）

日 程：8／23～8／30 ボリビア共和国スケレにて、語学レッスン、ホームステイ 8／31～ ボリビア共和国ラパス、ペルー共和国ブーノ、クスコ、リマにて、文化研修（青年海外協力隊活動見学、クスコ周辺遺跡、マチュピチュ遺跡、博物館、美術館の見学など）

参 加 者：人文学部（文化学科8名、日本語日本文化学科1名、英語コミュニケーション学科2名） 人間社会学部（国際社会学科6名、人間環境学科2名） 計19名

« Report

中国短期フィールドスタディの体験

初日に浦東空港に着いた時には、海外にいるのだという実感はありませんなく、バスに乗って街中を見ても、日本と似ていると思い、あまり違和感というものはありませんでした。歩いている人の顔も服装も日本人とほとんど変わりもなく、いたるところにある看板も漢字ばかりであるけれどそれほど抵抗もなく、やはり中国という国は日本に近い国なのだと感じました。しかし、バスの中から見る中国にそのようなことを感じていたのもつかの間。上海駅前でバスを降りてから中国に来たのだという実感がどんどんわいてきたのでした。この後、中国にいる間に必ず関わってくる言葉や日常生活上のマナー、食事など日本との違いを多く感じました。

しかし、学生交流で歴史問題や現代の問題、両国の若者についての話題で盛り上がり、そこで感じたのは、違いはあっても関心

のあることは同じなのだということ、過去に対する様々な思いはあっても、みんなが日本と中国の明るい未来を考えているのだということでした。他国の学生と多くの話題で話すことは今まで無いことだったので、今回の経験は本当に良いものだったと思います。

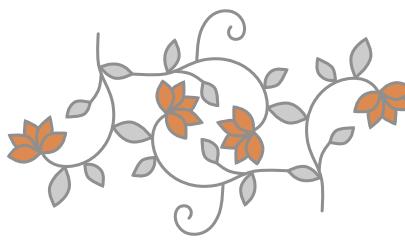
（国際社会学科2年 川原ひかり）



日 程：2008年9月4日～13日（10日間）

参 加 者：人間社会学部（国際社会学科3名、人間環境学科3名）計6名
9／4～7 上海（慰安婦問題資料館、上海博物館見学など）
9／8～10 南京（民間抗日戦争資料館、南京大虐殺資料館、南京事件被害者証言など）

9／11～13 上海（日系企業訪問、復旦大学や華東政法大学生と交流など）



卒業生パラリンピックで活躍

9月6日から開催された、北京パラリンピックのゴールボール女子に、2007年3月に人文学部英米文化学科を卒業した、高田朋枝さんが日本代表として出場しました。大学在学時から本格的に競技に打ち込んだ結果、日本の女子チーム6名の1人に選ばれたものです。開催期間中に北京に滞在していた、人文学部の篠崎美生子准教授が競技を観戦、遠くからでしたが感動的な再会だったそうです。

「北京日本学センターの先生が手配してくださったチケットで、高田さん出場のゴールボールの試合を観戦することができました。満員の北京理工大学体育館で迎えた日中戦、赤いユニフォームに4番をつけた背中は、確かに懐かしいたたずまいです。

観客一同が息を凝らしてコートを見つめる中、高田さんの第一投で試合開始。相手の隙をついてゴールをねらう側と、入れさせまいと

全身を伸ばし、まさに身を挺してボールを防ぐ3対3。「静」を破る拍手が観客席からあがったのは、最初のゴールを日本チームが決めたときでした。

高田さんは常に機敏に動き、きわどいブロックを何度も決め続けました。最後は中国チームの勝利でしたが、握手する高田さんの顔は充実感に満ちた笑顔!スポーツに親しみ、何事も恐れずチャレンジし続けていた在学中の彼女を思い出しながら、私も満ち足りた思いで拍手を続けました。」



コート上の女子チーム

*ゴールボール (Goalball)

アイシェード（目隠し）を着用した1チーム3名のプレーヤー同士が、コート内で鈴入りボールを転がすように投球しあって味方のゴールを防御しながら相手コールにボールを入れることにより得点し、一定時間内の得点により勝敗を決するもの。（日本ゴルボール協会のホームページから）

サマーキャンプに参加して

英語コミュニケーション学科1年
鈴木やよい

私が長野にある惠泉女学園蓼科ガーデンで行われたサマーキャンプに参加したきっかけは、世代を超えて様々な意見をもった惠泉の学生や、教職員の方々と交流することによって、迷いがちな自分を受け容れたい、という想いからでした。そして、都会から離れた緑豊かな場所に身をおくことによって、素直にありのままの自分を表現しても迎えてくれる人た

ちがいる場所が惠泉なのだ、という安心した気持ちを抱いて、家に帰ることが出来ました。最後の夜に皆で讃美歌を歌ったことは、素晴らしい思い出になりました。一人ひとりの歌声が暖かく私を包み、心が満たされていく気がしました。今まで自分に自信がもてずにいましたが、明るい気持ちでまっすぐ前を向き、自分や友人を信じて、これから4年間をゆっくり歩んで生きたいと思いました。貴重な体験で増えた仲間達に、いつか「ありがとう」と伝えたいです。



サマーキャンプ：8月1日～3日
キャンプテーマ：「惠泉のこころ」
惠泉女学園蓼科ガーデンにて
学生26名、教職員11名にて実施。

Academic Thai Program (PAYAP UNIVERSITY)

今年から始まったプログラムで、タイのパヤップ大学への派遣留学生として、8月から2名の学生がタイ語の勉強をしています。



文化学科4年
坂田 栄理子
国際社会学科2年
石井 春佳

今、私たちはタイ北部にあるチェンマイのパヤップ大学に留学しています。パヤップ大学はとても緑が豊かで、先生と学生の距離が近く、人々がフレンドリーで惠泉と重なるところがあり、惠泉を懐かしく感じます。

私たちが受けているAcademic Thaiは、日本人のほかカナダ、台湾、スウェーデン、ドイツなどの人たちと一緒に勉強をしており、授

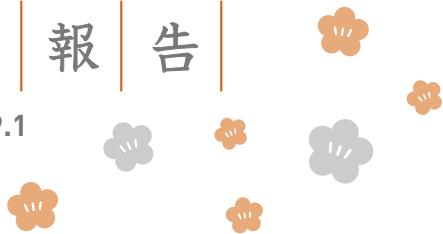
業の他それぞれの国のこと、生活のことなども会話しています。

留学してから約1ヶ月が経ち、タイの友達とはタイ語でちょっとした会話が出来るようになり、日々タイで生活するのが楽しくなっています。

寮には世界中の人が共に生活をしており、様々な国の人とも交流をし、充実した毎日を過ごしています。

行事報告

2008.11-2009.1



カリヨンの音色

今年の5月に設置されたカリヨン。秋学期より通常一日4回、各回2分程度、奏でられます。聴く場所によって、音色が様々に変化しますので、いろいろな場所で、耳を澄まし、カリヨンの音に耳を傾けてみてください。時間と曲名は次のとおりです。



チャペルのカリヨン

- | | | |
|---------------------|-------|-------------------------|
| 1. I 限開始前 | 8:57 | 「あさかぜ静かにふきて」『讃美歌21』211番 |
| 2. 礼拝開始時 | 10:31 | 「主よ、おわりまで」『讃美歌21』510番 |
| 3. 昼休み開始時 | 12:31 | "I Love You, Lord" |
| (木曜日 12:11または行事開始前) | | |
| 4. IV 限終了後 | 16:31 | 「輝く日を仰ぐとき」『讃美歌21』226番 |
| (木曜日 16:51) | | |

2008年多摩フェスティバル 11/8(土)、9(日)

テーマは“JEWELRY BOX～めざせ！ステキ女子～”

沢村一樹さんによるトークショーを始め、爆笑お笑いライブやミス恵泉コンテスト、恵泉ならではの楽しい企画を準備しています。恵泉の学生・受講生、友人、保証人や家族の皆さん、周辺地域の方々に、この学園祭をお楽しみ頂けますよう、多摩フェスティバル委員が全員で力を合わせて頑張っています。沢山の方々のご来場を心よりお待ちしています。

多摩フェスティバル委員一同

主な内容

- 国際シンポジウム 11/8(土) 13:30～16:30
- ミス恵泉コンテスト 11/9(日) 13:30～15:30
- 屋外での露天販売、教室での展示発表
- 参加団体の講演、教員によるコンサート
- エコ活動
(エコ容器の使用や徹底したゴミの分別、環境サークルの参加)
- 沢村一樹さんトークショー 11/8(土) 13:30～要入場券
- 保証人懇談会 11/8(土) 10:30～12:00
- 第35回FNSチャリティキャンペーン2008年
- エイズキャンペーン など

お弁当の日にお弁当を持って集まろう

5月から、毎月1回、第4木曜日の昼に“お弁当の日”を実施しています。3回目となる9月のお弁当の日には、なんと「流しそうめん」も行い、割った竹に無事にそうめんが流れてくれました。(拍手)

お弁当を持ち寄って一緒に食べることを通して、大勢で食べる楽しさを実感し、食について見直す機会にしたいと思って始めた企画です。参加資格は①恵泉女学園大学の学生、教職員であること、②お弁当を持参すること、だけです。お弁当は自分で作ったお弁当でも、家族が作ってくれたものでも、コンビニ弁当でもOKです。でもこの機会に自分で作ることにチャレンジしてもいいですね。自分の健康を考えて、献立や食材を選んだり、料理をする技術を身につけて、食や健康、環境の問題に視野を広げて欲しいと願っています。

次回は11月20日(木)に行います。秋学期中にお弁当コンテストも開かれる予定ですので、お楽しみに。



キャンパスで流しそうめん

就職ガイダンス始まる

3年生を対象とした就職ガイダンスと学内企業セミナーが、秋から集中的に開催されています。ガイダンスやセミナー情報は、学内ホームページ、@K (アット・ケー)、就職進路室の掲示板にご注意下さい。

2007年度の学内企業セミナー参加（抜粋）

三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ証券、みずほフィナンシャルグループ、全日本空輸、オリックス、サトー、ローム、東京エレクトロン、東京スタイル、レリアン、JCB、エトワール海渡など

恵泉トピックス

使ってますか？ @K(アット・ケー)

<https://atk.keisen.ac.jp/student/>

家で！キャンパスで！ 学生と大学をつなぐ、アット・ケー。

自分の時間割と休講、事務局から的大事なお知らせ、プログラムへの募集告知、行事予定などがチェックできる、アット・ケー。

シラバス、試験・レポート情報（定期試験用）、スクールバス時刻表なども、ここからリンクしています。9月からバージョンアップし、2ヶ月分の学事日程や当日の自分の時間割と1週間分の履修表が表示されるようになりました。

学生の委員と事務局が一緒になって、使いやすい機能などをこれからも考えていきます。今後は休講、教室変更情報などを携帯電話に転送するなどの機能を追加したいと、準備を進めています。

恵みの泉（表紙写真）

大学の正門を入り、エントリーコートの右側にあるのが、「恵みの泉」です。今年の4月に、伊勢原キャンパスから大学キャンパスに移設されました。この噴水は、ガラスルーフの上にあるソーラーパネルの太陽光発電（35ワット）でポンプを動かし、水を循環させています。スクールバスを降りて、少し立ち止まると、爽やかな水の音が聞こえできます。



■ 編集後記

夏期期間は学外でのプログラムが多く行われましたが、すべて無事に終了しました。秋は学内での行事がいろいろあるので、予定表が一杯になりそうです。そんな忙しい中でも、夕暮れのキャンパスから空を見上げると、美しい秋の空が広がっているのに気が付きます。秋の空って、何故か他の季節よりも広くて深く感じませんか？



秋の花 センニチコウ

* *Gomphrena globosa*

小さいポンポンのような花がたくさん咲くこの花は、秋の深まりとともにその色を深めていく。ドライフラワーとしてよく用いられ、その花の紅色が長い間色あせないことから「千日紅」という名前に。「生活園芸I」の授業で行うリース作りにむけて、学生たちは農場の一角の花畠の中で、好みの色の花を摘んでいる。



恵泉女子大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

(ホームページ) <http://www.keisen.jp/univ/>

(mobile) <http://m.keisen.jp>